

〔さとうきび〕

1 作付の概要

さとうきびの 2016/2017 年における鹿児島県の収穫面積は 10,020ha で、前年に比べて 151ha の減少となった。作型の構成は、夏植えが 13.0%、春植えが 18.0%、株出しが 69.0%となっている。夏植えは前年の 12.5%からやや増加している。品種構成では、NiF8 が全体の 42.7%を占め、次に Ni23 が 21.8%となっており普及が進んでいる。Ni22 は 14.7%である。

島ごとに見ると、種子島では、株出しが 67.0%と多く、品種は NiF8 が 73.8%、Ni22 が 15.5%、NiTn18 が 10.0%となっている。奄美大島では、株出しが 68.0%であり、品種は Ni22 が 33.1%、Ni23 が 23.9%となっている。喜界島では、株出しが 62.6%であり、Ni23 が 34.6%、NiF8 が 24.9%、Ni22 が 3.1%となっている。徳之島では、株出しが 73.2%であり、NiF8 が 37.8%、Ni23 が 34.4%、Ni22 が 5.7%となっている。沖永良部島では、株出しが 67.4%、NiF8 が 45.4%、Ni22 が 40.9%となっている。与論島では、株出しが 81.6%、Ni23 が 61.3%、NiF8 が 14.0%を占めている。

沖縄県の収穫面積は 12,938ha で、前年より 274ha 減少した。沖縄県での作型構成は、夏植えが 31.7%、春植えが 9.6%、株出しが 58.6%となっている。品種構成では、Ni27 が 38.0%と最も多く、NiH25 が 10.2%、Ni21 が 9.8%、NiF8 が 6.7%、Ni28 が 5.4%、Ni22 が 4.5%の順となっている。Ni27 の普及が進んでいる。

地域別では、沖縄地域（周辺離島を含む）では、株出しが 72.4%と多く、品種は Ni21 が 13.7%を占め、次いで NiF8 や Ni28 となっている。宮古地域では、株出しが 49.6%と増加している。また、品種では Ni27 が 72.4%を占めるまで増加し、NiH25 と Ni21 がそれに続く。八重山地域では、株出しが 38.0%であり、品種では NiH25 の 30.9%、次に Ni27 の 29.5%となっており、NiH25 が急速に増えている。

2 作柄の状況

鹿児島県では、台風等の大きな気象災害もなく、天候に恵まれたことや、メイチュウ等の防除を徹底したことから、単収は 6,349kg/10a で対前年比 128.0%、収穫量は 636,217t で対前年比 126.1%と前年を大きく上回った。甘蔗糖度も 13.98 度と前年 13.86 度を上回り、収量・品質ともに平年を上回る豊作年となった。

沖縄県では、6 月～8 月にかけて降水量は平年並みかやや少雨気味で推移し、9 月には相次ぐ台風の接近等の影響で平年を上回る降雨があり、生育は良好であった。単収は 7,246kg/10a で対前年比で 126.9%、収穫量は 937,523t で対前年比 124.2%と前年を大きく上回った。糖度は 14.6 度となり、前年 13.6 度を上回った。

2016/2017年期の鹿児島、沖縄両県のさとうきび生産実績

県別	年次	農家戸数 (戸)	収穫面積 (ha)	単位収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	甘蔗糖度 (%)	産糖量* (t)	歩留り** (%)
鹿児島県	2016/2017年次	7,814	10,020	6,349	636,217	13.98	77,549	12.19
	対前年比	96.3	98.5	128.0	126.1	100.9	128.8	100.3
沖縄県	2016/2017年次	14,693	12,938	7,246	937,523	14.6	114,353	12.07
	対前年比	96.1	97.9	126.9	124.2	107	137.9	110.9
両県合計	2016/2017年次	22,507	22,958	6,855	1,573,740	-	191,902	12.12
	対前年比	96.2	98.2	127.3	125.0	-	134.1	107.0

*: 含蜜糖を含む生産量

** : 分蜜糖のみの歩留り

平成28/29年期のさとうきび及びびん糖生産実績(鹿児島県、沖縄県)より抜粋、編集。